

All About SAFETY

安全をいかに創造するか

「安全である」ということは、すべての業界において共通の課題といえるでしょう。特に、旅客や貨物などの輸送サービスを担う業界はより高い安全性を確保することが求められています。「All About SAFETY」は、そうした業界や企業がどのように安全を追求しているか、その考え方や具体的な取組みを紹介し、皆様の安全活動の参考としていただくための連載記事です。

東神観光バス(株)の取組み お客様が安心して出かけられる 安全な観光バスをめざす

中央分離帯を飛び越えた乗用車が 観光バスに衝突

6月10日、東名高速道路上り線の新城パーキングエリア付近で観光バスと乗用車の衝突事故が発生した。下り線を走る乗用車が中央分離帯を飛び越え、空中を回転しながら上り線を走る観光バスのフロント部分に衝突。乗用車は観光バスの右上部に乗り上げた。乗用車が衝突するまでの過程は観光バスに装着されているドライブレコーダーに記録されていたので、その映像をテレビのニュースなどで目にした人も多いだろう。

この観光バスを運行させていたのが、東神観光バス(株)(本社:愛知県豊橋市)である。同社は愛知県および静岡県に3カ所の営業所を展開し、60台のバス(大型貸切観光バス、中型貸切観光バス、マイクロバス)を保有している。同社で運行管理者・整備管理者を務める車両課長の久保弘美さんは「お客様にはご迷惑をおかけしましたが、皆さんの命を守れたことは不幸中の幸いです。大ケガを負った当社の運転士も順調に回復し、業務への復帰をめざしています」と話す。

死者ゼロだったのは 運が良かったからではない

不測の事態ともいえる東名高速道路での事故だが、被害を最小限にとどめられた背景には、同社が乗客の安全を確保するための取組みに力を入れてきたことがうかがえる。その1つが新型車両の導入だ。「新型車両には前方の車両への衝突被害を軽減するブレーキシステムや、車線を逸脱するとドライバーに警告するシステムなど先進安全技術が最初から備わっています。さらに、車体の強度も向上しています。今回の事故も旧型のバスだったら、乗用車が衝突した運転席付近はつぶれていたといわれています」と久保さんは説明する。

さらに同社では、ドライブレコーダーと連動したデジタル式運行記録計の装着も進めている。長距離を走る大型貸切観光バスは、この装置が本社と回線で結ばれており、ドライブレコーダーの映像を通じ、バスの運行状況をリアルタイムで確認できる。そして、走行中に異常が発生した場合は本社にあるモニターにアラームで知らせるようになっていて、今回の事故も現場を見る前にバスに何が起きたかを把握でき、素早い事故対応につながったと久保さんは振り返る。ドライブ

レコーダーに記録された映像データは本社側で保存できるので、報道機関にもすぐ提供できたというわけだ。

こうしたハード面での取組みを推進する以前から励行してきたのが、運転士や乗務員による乗客に対するシートベルト着用の声かけだ。今回の事故に遭ったバスではガイド乗務員が東名高速道路に入る直前に乗客への着用案内だけでなく確認も実施している。そのため、激しい衝撃にもかかわらず、シートベルトを着用していたことで乗客の車外放出を防げたと久保さんはみている。「最近バス事故の報道もあって、お客様のシートベルト着用への理解が進んでいるようです。すべてのお客様に着用していただくためには、私たちが繰り返し呼びかけていくことが大切だと考えています」。

会社全体の安全に対する意識が さらに高まった

東神観光バス(株)では年4回、運転士を対象にした安全運転ミーティングを実施している。バスに装着されているデジタル式運行記録計にはバスの速度やエンジン回転数はもちろん、ブレーキの強弱や急ハンドルといった操作状況に関するデータが蓄積される。このデータから運転士一人ひとりのクセがわかるので、それをもとに運行管理者が改善に向けたアドバイスをしている。また、運転中のヒヤリハットを共有したり、新型車両に装備されている先進安全技術の使い方や効果への理解を深める場にもなっている。「事故に遭ったバスの運転士はベテランの優良ドライバーです。そういうドライバーでも防げないことがあることを目の当たりにして、これまで以上に運転士一人ひとりが真剣に取り組むようになりました」と、会社全体の事故防止に対する意識がより一層高まったと久保さんは感じている。

業界団体である(公社)日本バス協会は、貸切バス事業者からの申請に基づき安全性や安全の確保に向けた取組み状況について評価認定を行っている。東神観光バス(株)は今年度、この貸切バス事業者安全性評価認定を受けたところだ。

「安全は、お客様の命にかかわってきます。ここをおろそかにしていると、当社だけでなく、業界全体が衰退していくと思っています。これからも、お客様が安心して出かけられる安全な観光バスをめざしていきたい」と、久保さんは力強く語った。



東神観光バス(株)では安全性の高い新型車両への代替を順次進めている



中央分離帯を飛び越えた乗用車が観光バスに向かってくる様子はドライブレコーダーに記録されている



走行中は運転席の様子も撮影されている



東神観光バス(株)車両課長の久保弘美さん

6月10日に発生した事故の経緯

午前5時27分	点呼・車両点検後、出庫。
午前6時21分	乗降地(愛知県八幡町)に到着。現地に待機。
午前7時01分	乗客を乗せ、出発。
午前7時21分頃	豊川インターチェンジから東名高速道路に入る。この際に法規に従い、ガイドがシートベルト着用案内と点検を実施。
午前7時29分	新城パーキングエリア付近に差しかけたところで、対向車線より乗用車が中央分離帯を越えて突入し、バスと衝突。同時に同社運行管理部のパソコンにアラームを送信。
午前8時00分	同社管理職および契約事故調査会社が現地到着し対応。乗客・乗務員47人は病院に搬送。